

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		砂川樫井線新設事業				②事業番号		5106	
③事業類型		5. 普通建設事業		④開始年度		昭和 51 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		○ 法令		○ 計画等		その他		法令等の名称	
⑦実施手法		直営		○ 一部委託		補助・負担		その他	
⑧関連予算科目コード		款 7		項 4		目 6		細目 1	
⑨担当部名		⑩担当課名		会計		一般会計			
都市整備部		道路課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 道路利用者	① 計画延長	m
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
都市計画道路砂川樫井線のうち、下記の認可区間について、道路新設工事を行う。 ①JR和泉砂川駅付近から一丘団地の間(計画延長1,498m) ②一丘団地(小学校)から市道樫井大苗代新家線の間(計画延長490m)	① 投資済額	千円
	② 整備済額	m
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
安全性・利便性を向上させる。	① 整備率(事業費ベース)	%
	計算式 投資済/総事業費	
	② 整備率(延長ベース)	%
	計算式 整備済延長/総延長	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
市内の主要拠点を結び、市の骨格となる幹線道路の整備が促進される。	政策(章) 5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち	
	施策大(節) 2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします	
	施策中 1 道路の整備	
	施策小 1 幹線道路の整備	

【2】各種指標値、事業費の推移

		指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	計画延長	m	1,958	1,958	1,958	1,958	1,958	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②									
活動指標①	投資済額	千円	3,303,942	3,303,942	3,385,714	3,453,189	—		H26から延伸事業着手のため、延長増となる。 H28から延伸事業の設計等着手したため、投資済額が増加した。
活動指標②	整備済額	m	1,120	1,120	1,120	1,120	—		
活動指標③									
成果指標①	整備率(事業費ベース)	%	77	78	80	82	—		事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標②	整備率(延長ベース)	%	57	57	57	57	—		
成果指標③									
事業費	投入人員	人	0.45	0.36	0.45	0.45	—		H30から用地買収に着手したため、事業費が増加した。
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	—		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	3,614	2,891	3,648	3,648	—		H30から用地買収に着手したため、事業費が増加した。
	直接事業費	千円	24,515	17,509	81,772	67,475	—		
	総事業費	千円	28,129	20,400	85,420	71,123	—		
財源内訳	国庫支出金	千円	13,302	8,657	43,891	31,900	—		H30から用地買収に着手したため、事業費が増加した。
	府支出金	千円	0	3,542	17,956	13,050	—		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0	—		
	その他特定財源	千円	10,100	4,100	16,100	16,200	—		
	一般財源	千円	4,727	4,101	7,473	9,973	—		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	JR和泉砂川駅付近と一丘団地、市場岡田線、新家方面を結ぶ幹線道路を整備することで、利用者の安全性・利便性を向上させ、交通の円滑化を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	現状では本線が市場長慶寺砂川線にアクセスし、JR阪和線を越えている。今後、一丘団地から先を延伸し、より一層の事業効果の発現を図る。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市内幹線道路の一部であり、整備することにより、移動がスムーズとなり、利用者の利便性が向上する。
②税金を使って達成する目的ですか。(市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	都市計画法に基づいて施行され、また、社会基盤を支える根幹となる事業であるため、交付金(国費)を含む税金を充てて達成できる事業である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。(他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	定められた諸基準に適合するよう、計画・設計をしている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	交通渋滞の緩和のため、幹線道路の整備が必要である。

[2]有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[2]の評価

B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	用地買収が順調に推移している。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。(事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	関係機関との協議を進めることにより、成果向上の余地を検討する。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	他部署で類似の目的を持つ事務事業なし。

[3]効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[3]の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。(業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	設計内容の精査により、コスト削減を目指す。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。(歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	都市計画税が充てられている。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	道路利用者の安全性、利便性の向上が期待できるので、供用に向け鋭意取り組む必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

<p>ア</p>	<p>ア. 現状のまま継続</p>	<p>イ. 見直しのうえで継続</p>	<p>ウ. 終了 ↓ (___ 年まで)</p>	<p>エ. 休止 ↓ (___ 年から)</p>	<p>オ. 廃止 ↓ (___ 年から)</p>
<p><今後の展開方針></p> <ul style="list-style-type: none"> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する) 					
①改革、改善の具体案、実施年度など		—			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—			